

## ◎ 美術館情報

最新の情報は、各施設の公式ホームページなどでご確認ください。

### 1. 岐阜県現代陶芸美術館【岐阜・多治見】(<https://www.cpm-gifu.jp/museum/events/event/event-6988>)

5月16日(火)～8月27日(日)

企画展：豊場惺也展—うつわを愉しむ / コレクション・ハイライト

1942年に名古屋の刀剣鑑定の家に生まれた豊場惺也は、名古屋市立工芸高等学校木工科を卒業後、「志野」と「瀬戸黒」の二つの重要無形文化財の保持者である荒川豊蔵の内弟子となりました。荒川が指導していた水月窯や大萱(おおがや)の陶房で修業し、1974年可児市大萱窯下に穴窯を築窯して独立、以降、個展での発表を中心に活動を続けています。2018年、可児市指定重要無形文化財「瀬戸黒」の保持者に認定されました。豊場の手から生み出されるうつわたちは、作家の人柄をあらわした穏やかさと温かさに溢れています。土、ろくろから生み出される素直なかたち、そして人為の及ばない焼成さえもそのままに受けとめて作陶する、作家自身の愉しむところを映し出すようなうつわたち。本展では、茶陶と食器という、豊場が取り組み続ける二つのうつわの世界を中心に、瀬戸黒、志野、黄瀬戸、粉吹、唐津など多彩な技法で、大萱の自然と暮らしのなかで作り続け、生まれてきたうつわたちを紹介します。

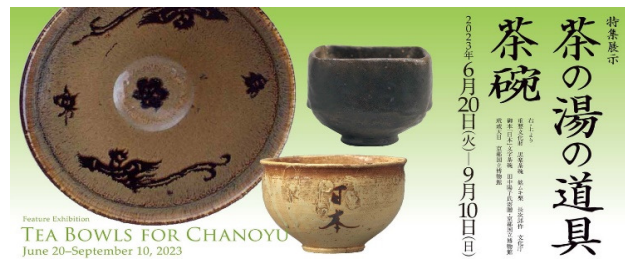


### 2. 京都国立博物館【京都・東山】([https://www.kyohaku.go.jp/eng/exhibitions/feature/b/chanoyu\\_2023/](https://www.kyohaku.go.jp/eng/exhibitions/feature/b/chanoyu_2023/))

6月20日(火)～9月10日(日)

企画展：特別展示 茶の湯の道具 茶碗

茶の湯(茶道と呼ばれることもあります)の実践では、茶碗は単にお茶を飲むための容器以上のものです。また、お茶の集まり中の美的鑑賞の重要な対象としても機能します。茶碗は手に持って賞賛できるものであり、ホストとゲストの間の接続ポイントを提供します。茶の湯の文脈でお茶を出すために使われてきた多くの茶碗の中で、「名碗」として崇拝されている茶碗は特に豊かな歴史を持っています。これらのボウルは、そのユニークなスタイルと優雅さ、そして何十年も何世紀にもわたってそれらを保持し、大切にし、賞賛してきた無数の手によって特徴付けられます。本展では、中国の唐物茶碗、韓国の高来茶碗、日本の和物茶碗のいずれかに分類される、著名な起源の有名な茶碗の数々に焦点を当てています。これらの模範的な陶磁器に関連する多様な種類、特徴、起源、物語を強調することで、訪問者が日本のお茶文化における茶碗の役割について学び、振り返るのに役立つことを願っています。



### 3. 国立工芸館【石川・金沢】(<https://www.momat.go.jp/craft-museum/exhibitions/r5-01>)

7月7日(金)～9月24日(日)

企画展：水のいろ、水のかたち展

本展は「水」をテーマに、工芸・デザイン作品に表現された水や、水をいれる器の形に注目して国立工芸館の所蔵品を中心にご紹介する展覧会です。私たちの生活に欠かすことの出来ない「水」は、決まった形も色ありません。それでも水は古来より海や川を始め様々な形や色で描かれ、工芸作品においても多くの作家に着想を与え、様々な形や色、技で表現されてきました。例えば蒔絵で描かれた波紋や、急流を思わせる竹の編み方、多数の色糸で織り上げた水辺の景色...そのほかにも様々な形や色、技で表現されています。とらえどころのないものだからこそ、作家の観察眼によって個性が表れる水の表現をお楽しみください。

